

「原子力発電所の共存共栄と地域振興」

敦賀市長 河瀬 一治

1. はじめに

2. 安全の確保について

安全規制の強化

原子力災害対策特別措置法の実効性ある運用

高経年発電所の安全対策

3. 地域の振興

(1) 電源三法制度の経緯

全原協の総力を結集して昭和49年に創設（制度化）

- ・ 昭和49年1,000kWhあたり85円
- ・ 昭和55年に同300円に改定されるとともに「立地勘定85円」「多様化勘定215円」となる。
- ・ 昭和58年に同445円に改定、「立地勘定160円」「多様化勘定285円」となる。
- ・ 平成9年に同445円で「立地勘定190円」「多様化勘定255円」と両勘定の比率改定。

(注) 立地勘定 発電用施設周辺地域の整備や安全対策等発電施設設置
円滑化のための経費

多様化勘定 新エネルギーの開発、導入等のための経費

(2) 電源開発促進税法

発電施設の設置の促進及び石油に代わる燃料による発電の促進。

電気事業者の販売代金に対し1,000kW当たり445円の電源開発促進税を賦課。

(3) 電源開発促進対策特別会計法

上記の(2)の法により徴収した収入を「電源立地勘定(1,000kWhあたり190円)」「電源多様化勘定(同225円)」に区分し、特別会計法の枠組みの中で夫々に活用

(4) 発電用施設周辺地域整備法

「電源立地促進対策交付金」の名の下で立地及び周辺地域の各種公共施設の整備に供される。(いわゆる三法交付金と通常いわれている。)

(5) 電源三法の決算状況(別添-1)

- ・ 電源立地促進対策交付金の予算・決算の推移では、実質的支出額が少ない。
- ・ 交付金の弾力的運用を強く望むものである。

(6) 恒久的地域振興の発展

- ・ 電源立地促進対策交付金は、原子力発電所立地当初の短期的な交付であり、恒久的発展になっていない。
- ・ 運転後の固定資産税は、毎年急速に減少している。（別添－２）
- ・ 国は、技術的評価として60年運転が可能としているが、これらの地域振興対策をすべきである。更にこれら交付金は、運転終了までとなっているが解体まで交付すべき。

4. 風評被害と消費地域の意識（別添－３）

- ・ 鮮魚、海水浴客、民宿等への影響
- ・ 街のイメージダウン
- ・ 電力発祥の意識の希薄

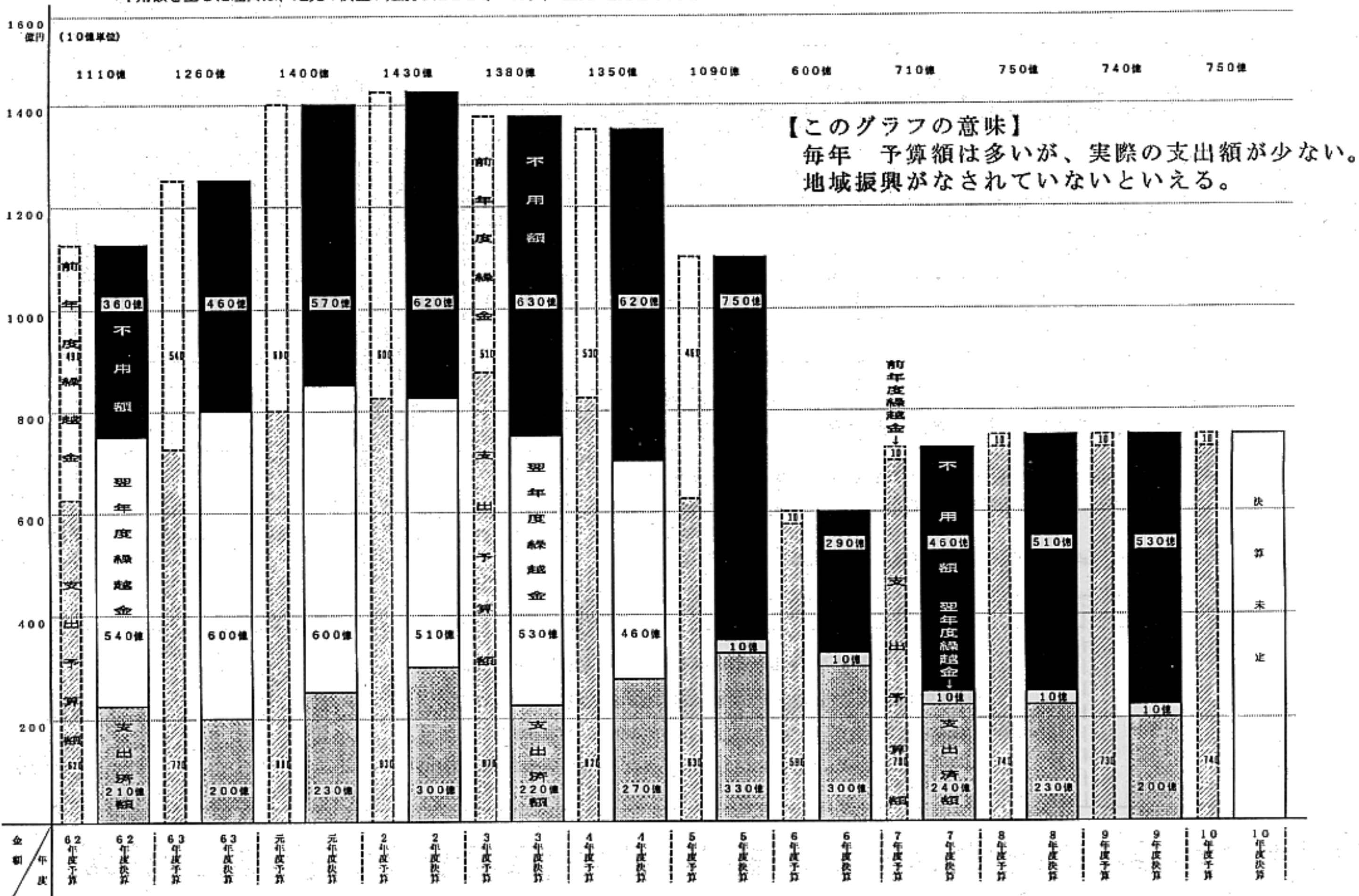
5. 情報公開と教育

- ・ 日本原電敷賀2号機の一次冷却材漏えい事故
- ・ 学校教育と社会教育

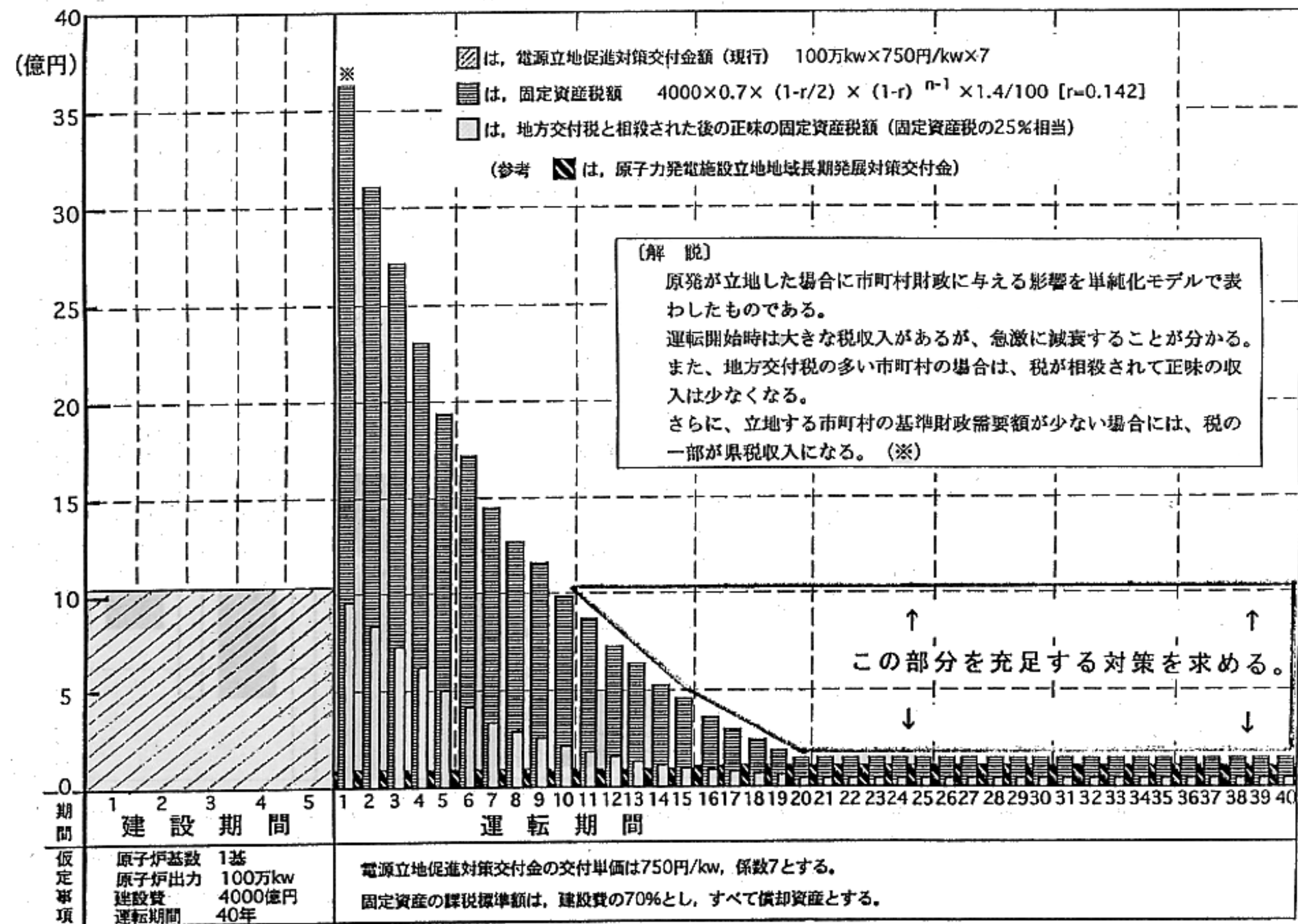
電源立地促進対策交付金の決算状況調べ

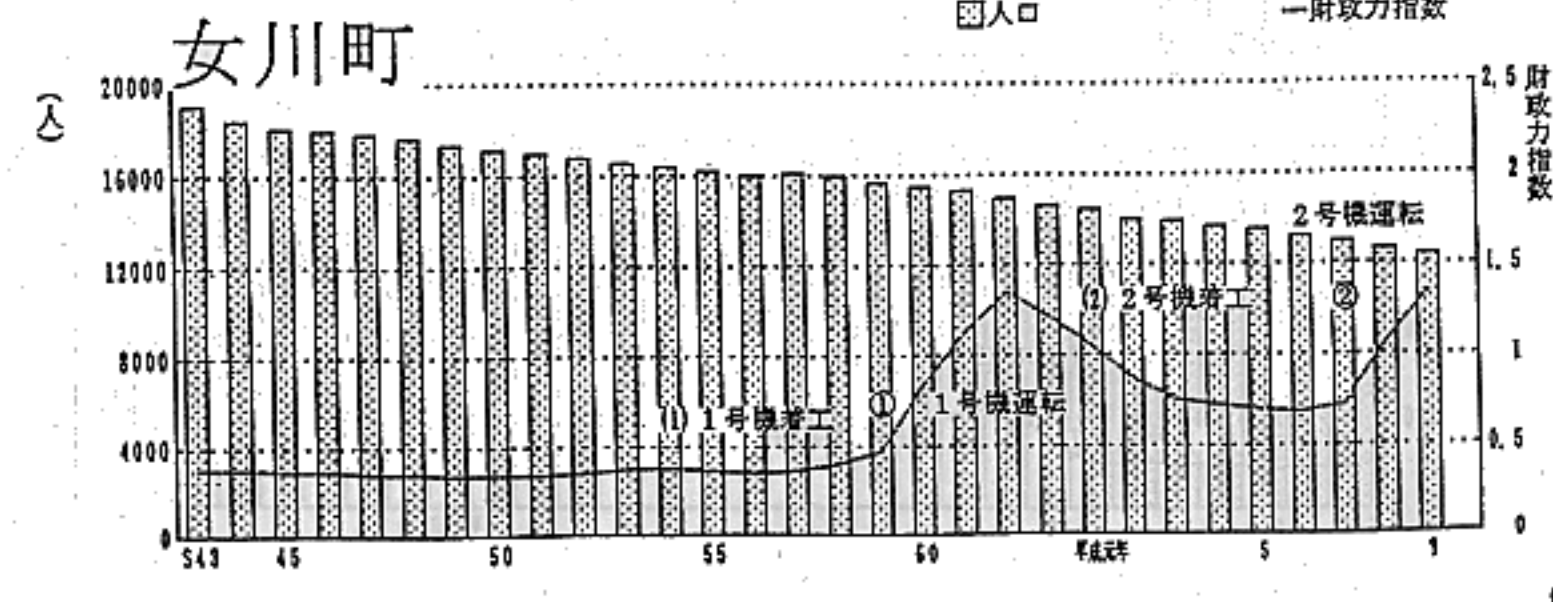
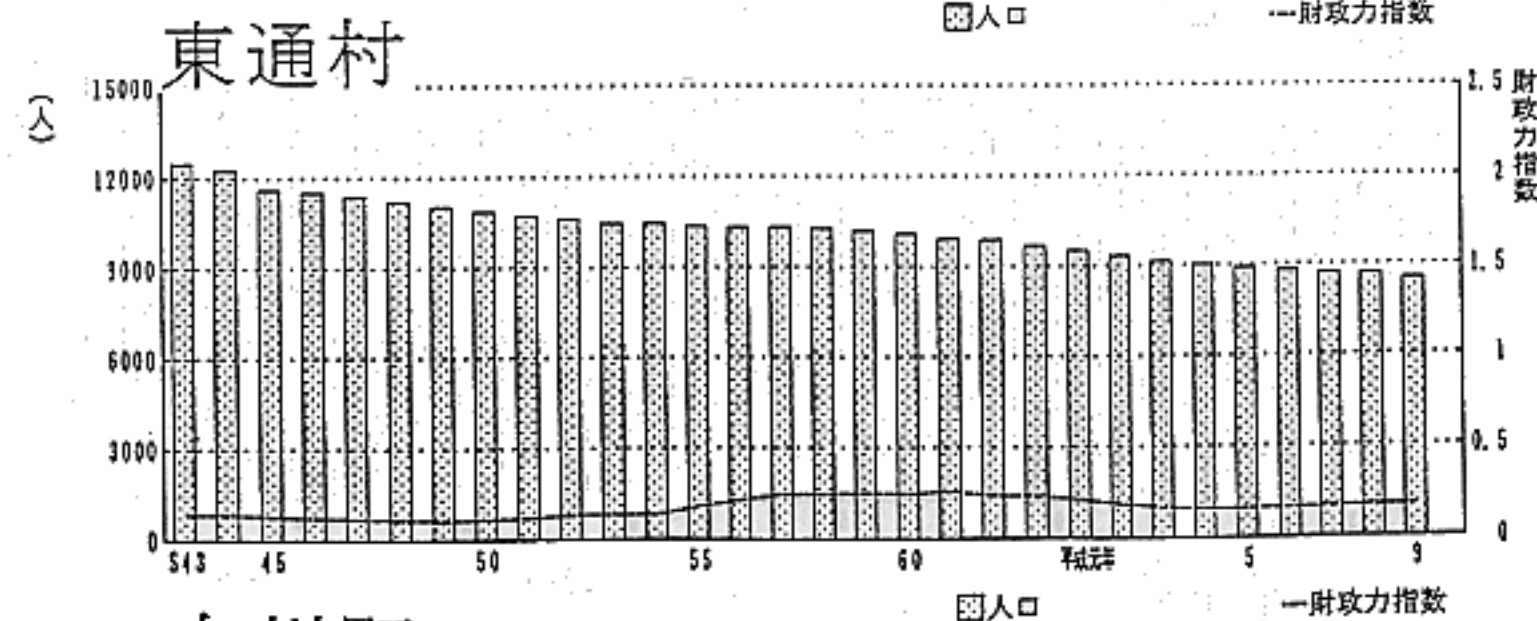
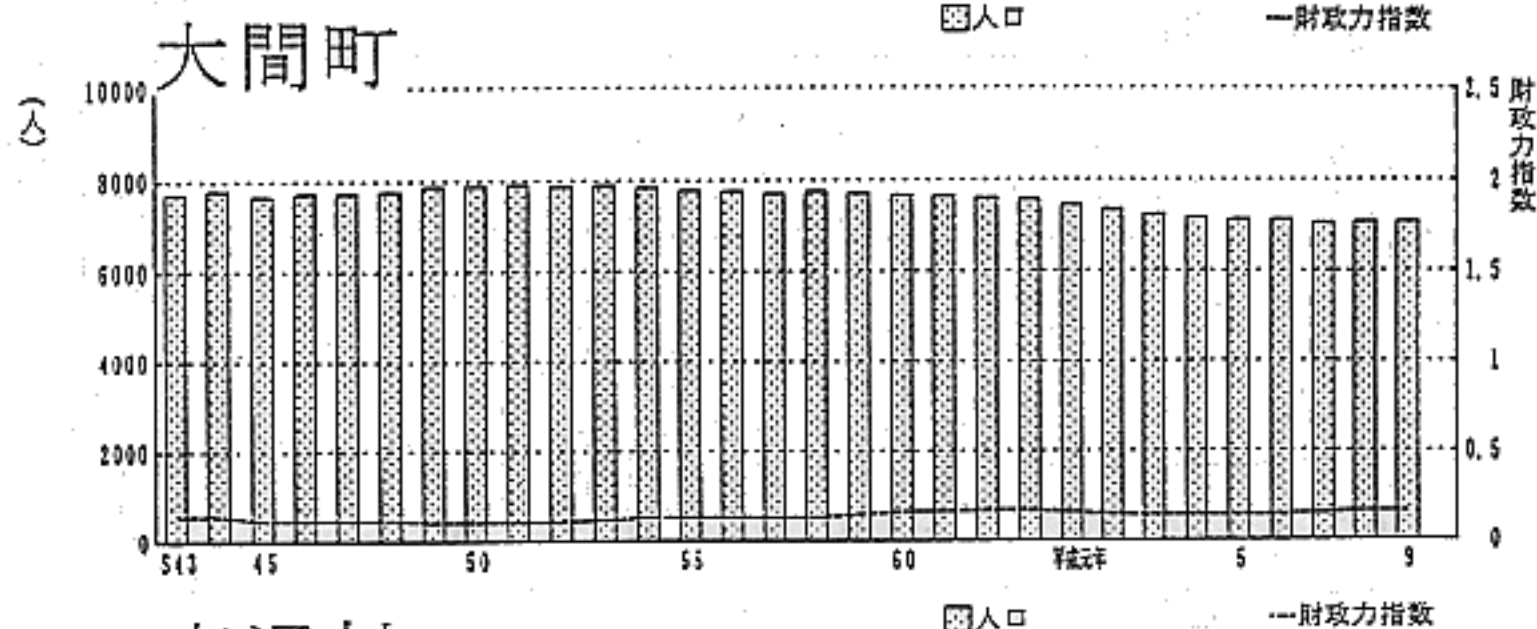
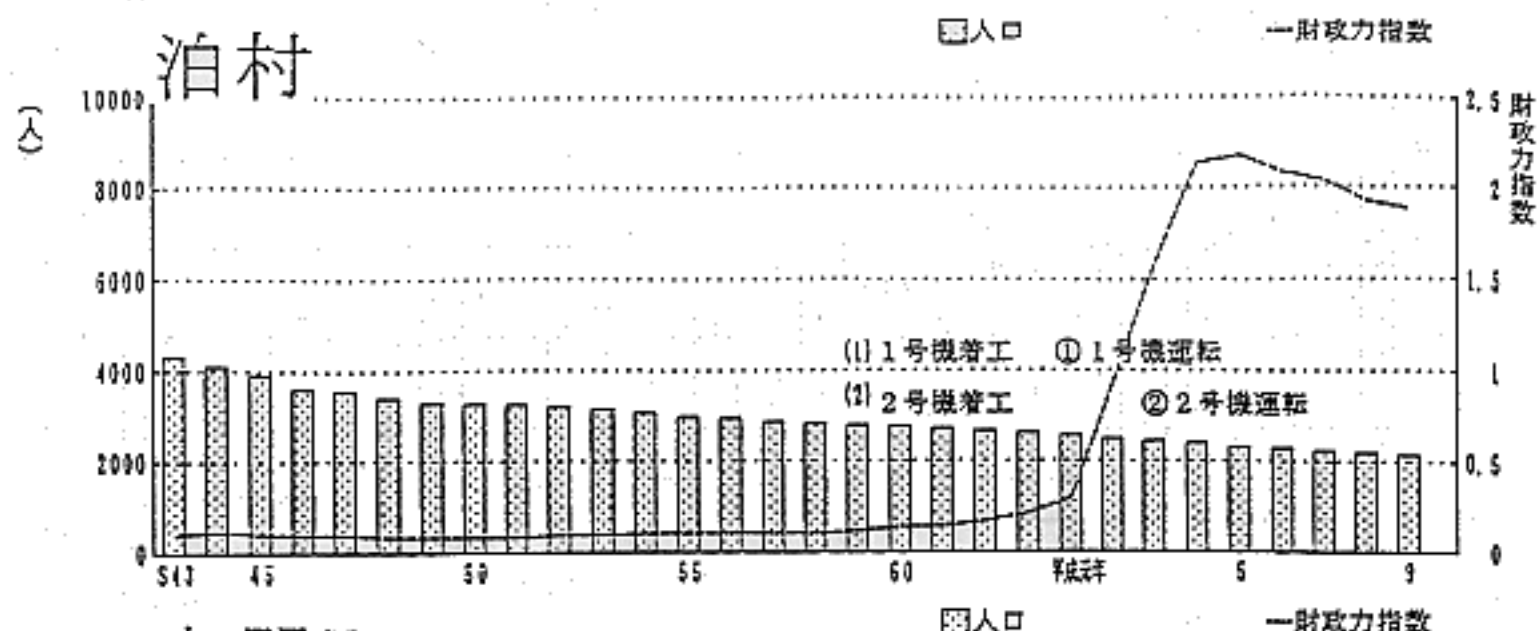
(出典 電源開発促進対策特別会計決算参照書)

「不用額を生じた理由は、地元の調整が難航したこと等により、電源立地促進対策交付金を要することが少なかったこと等のため」(決算参照書より)



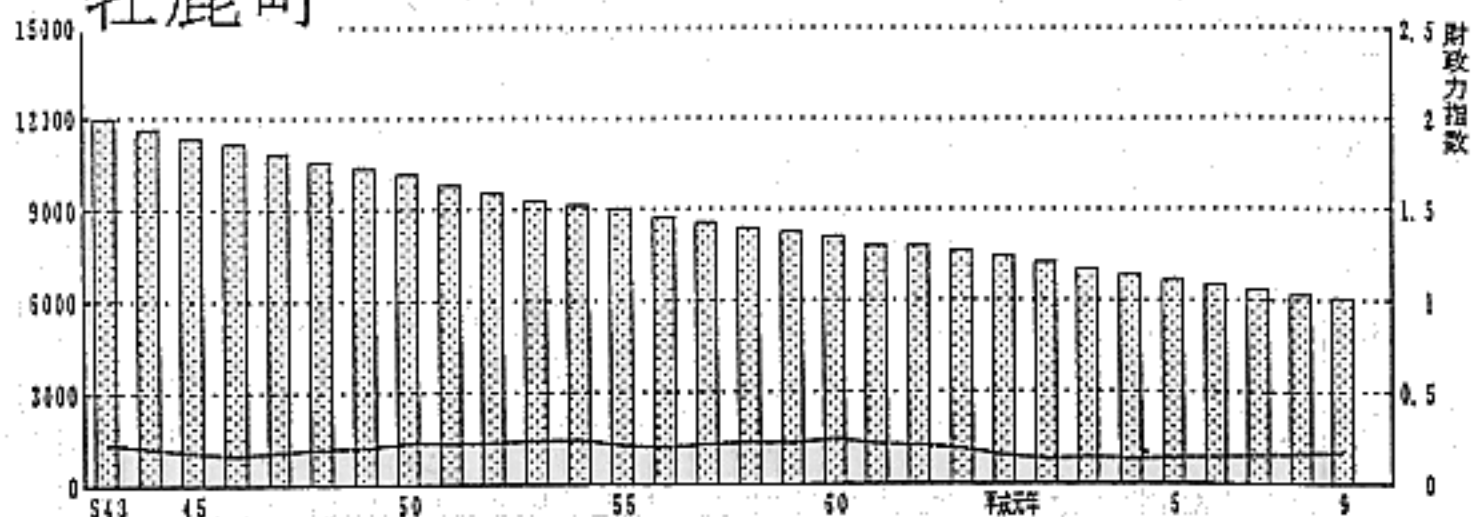
原子力発電所に関する固定資産税収入と電源立地促進対策交付金（単純化モデル）





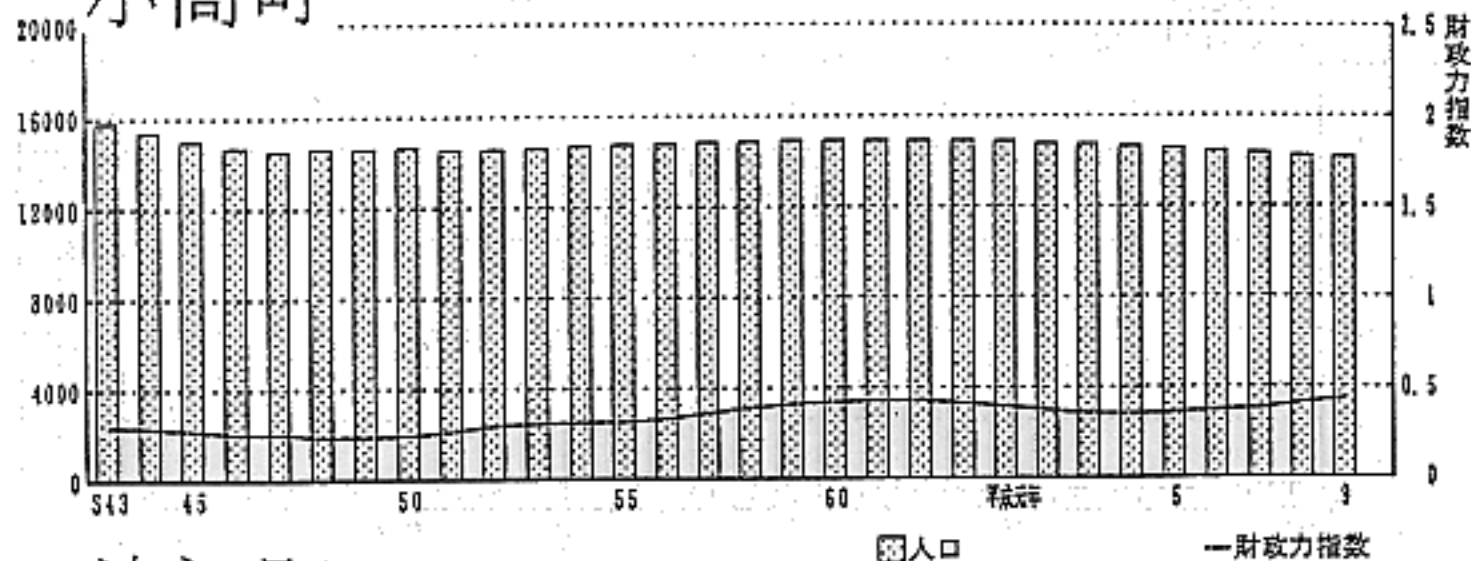
牡鹿町

(人)



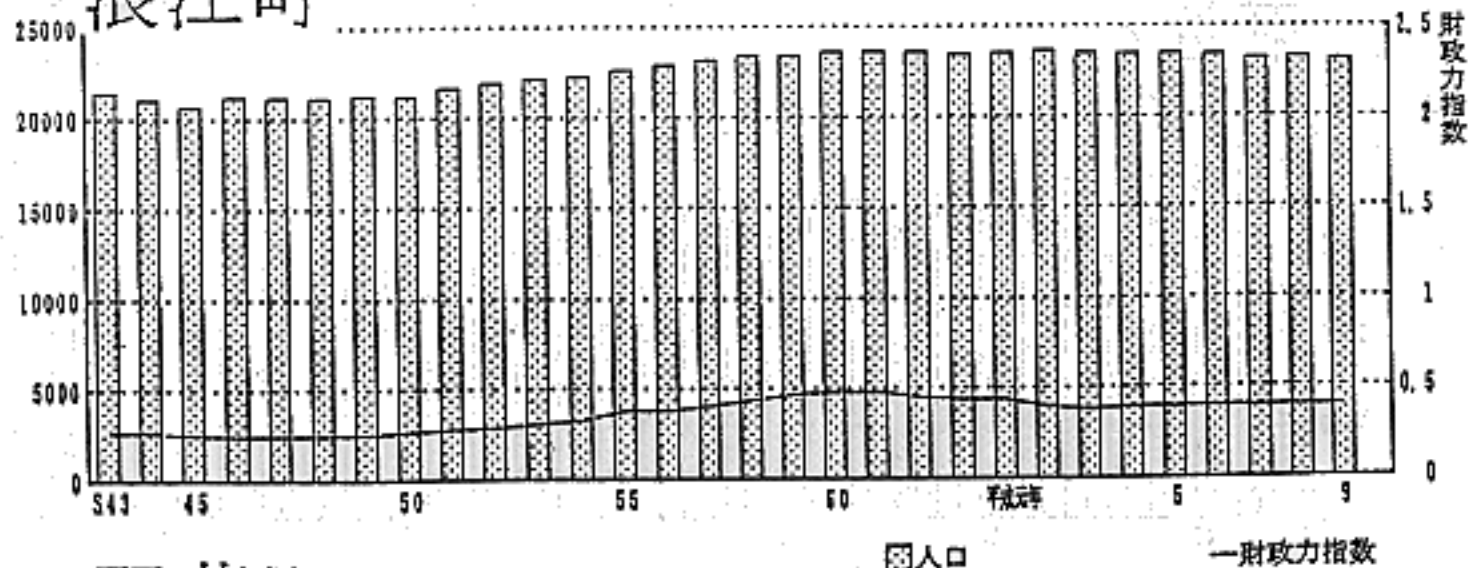
小高町

(人)



浪江町

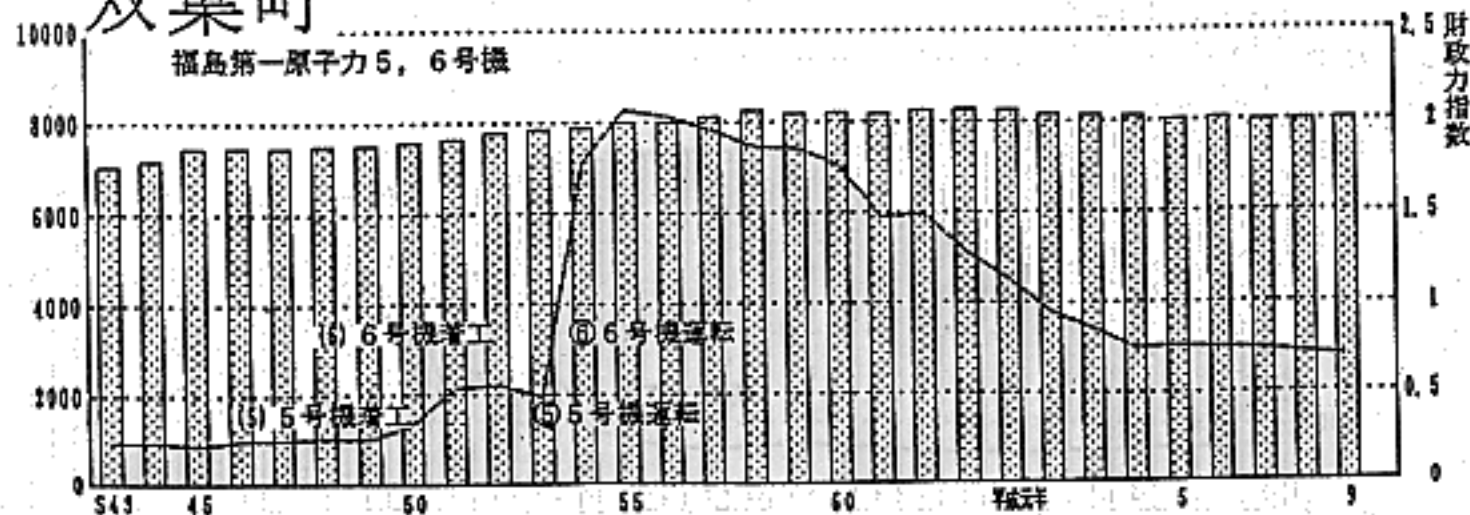
(人)



双葉町

(人)

福島第一原子力5, 6号機

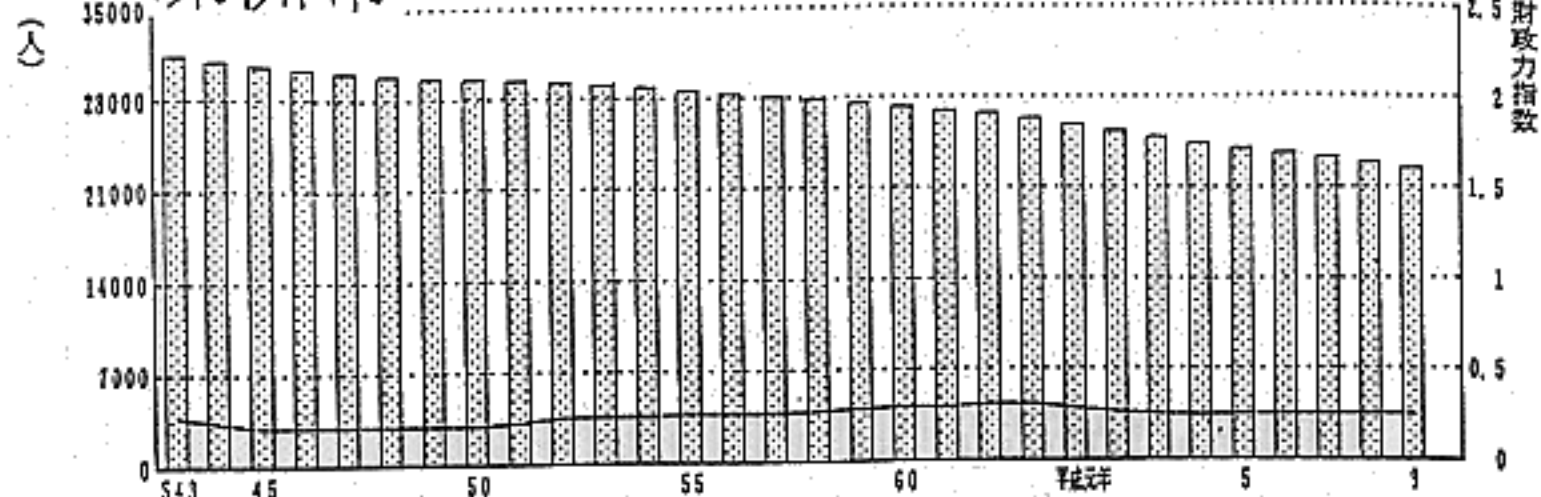


(年)

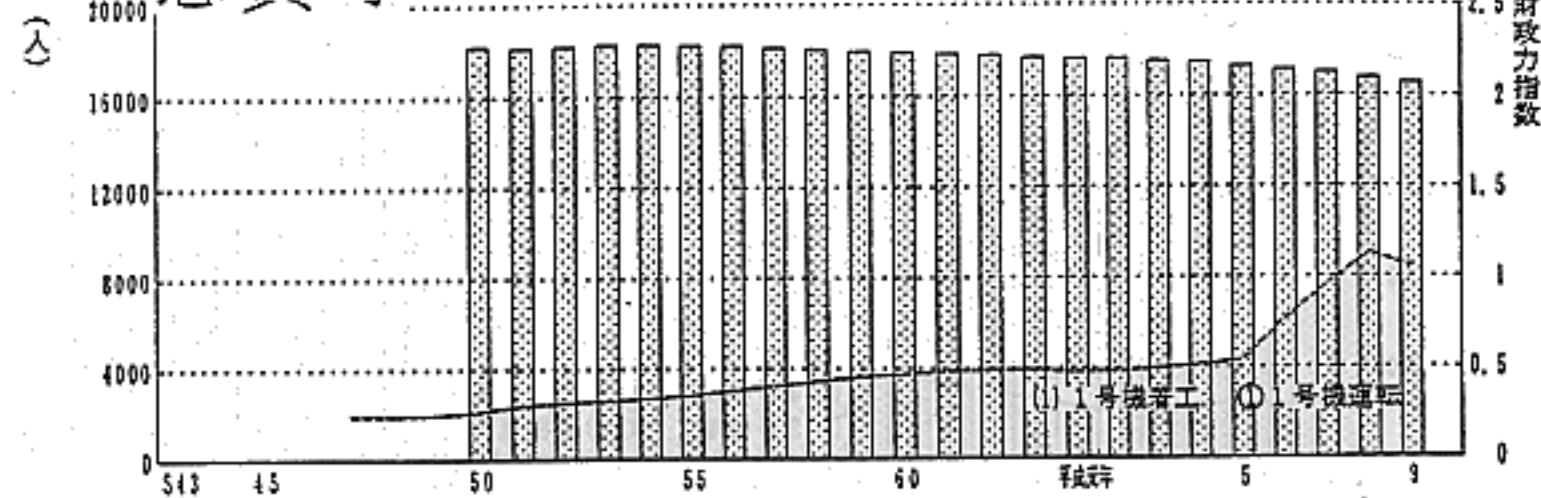
人口

一財政力指数

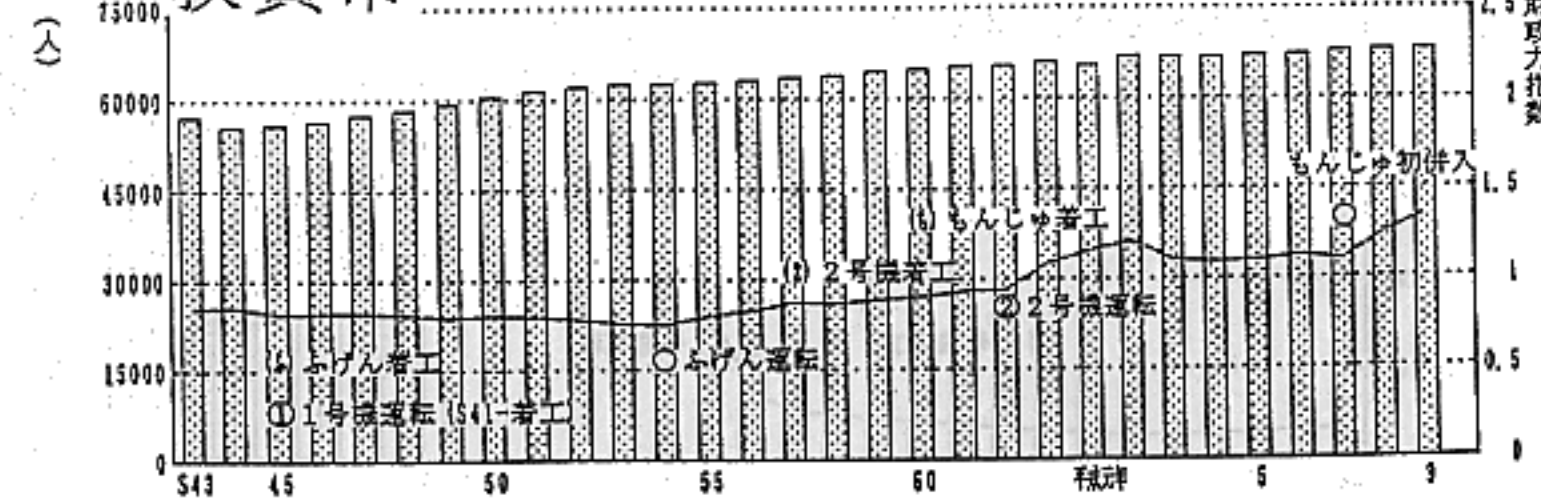
珠洲市



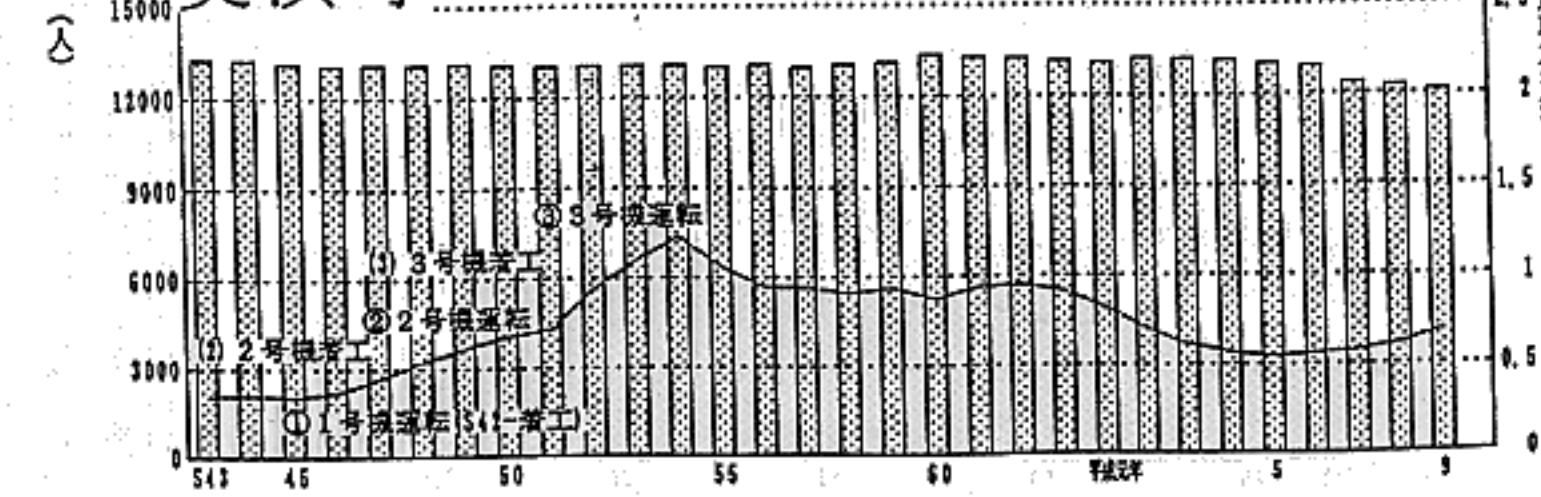
志賀町



敦賀市



美浜町

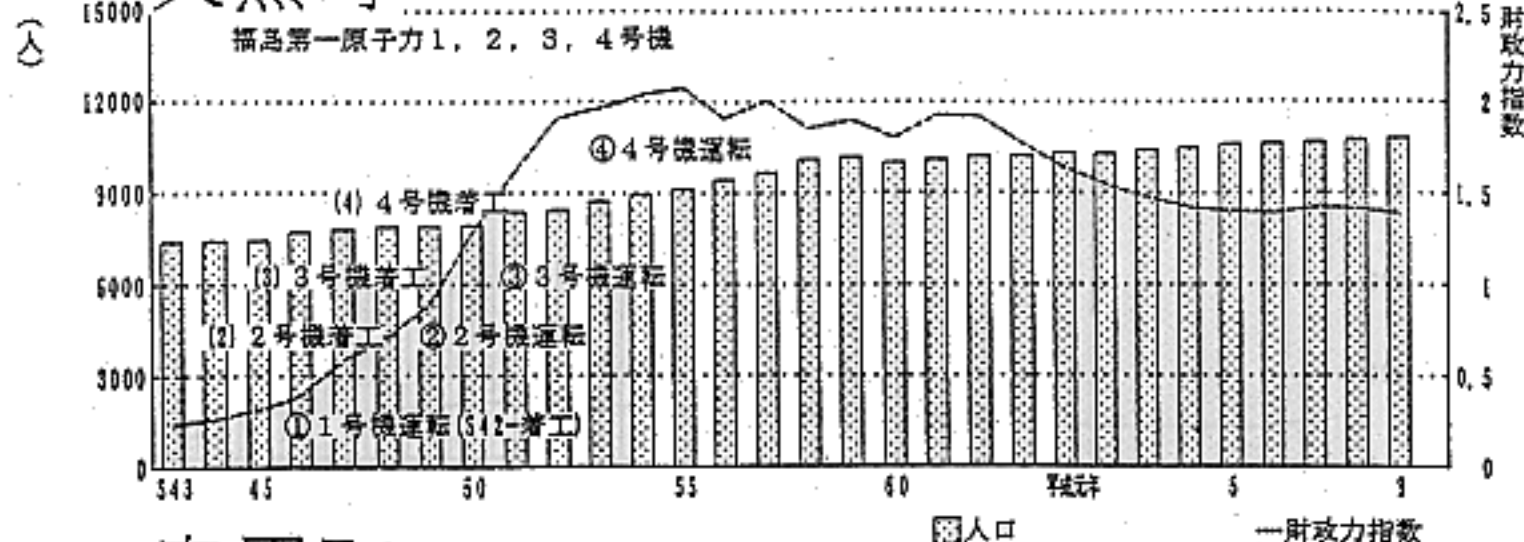


大熊町

人口

一財政力指数

福島第一原子力1, 2, 3, 4号機

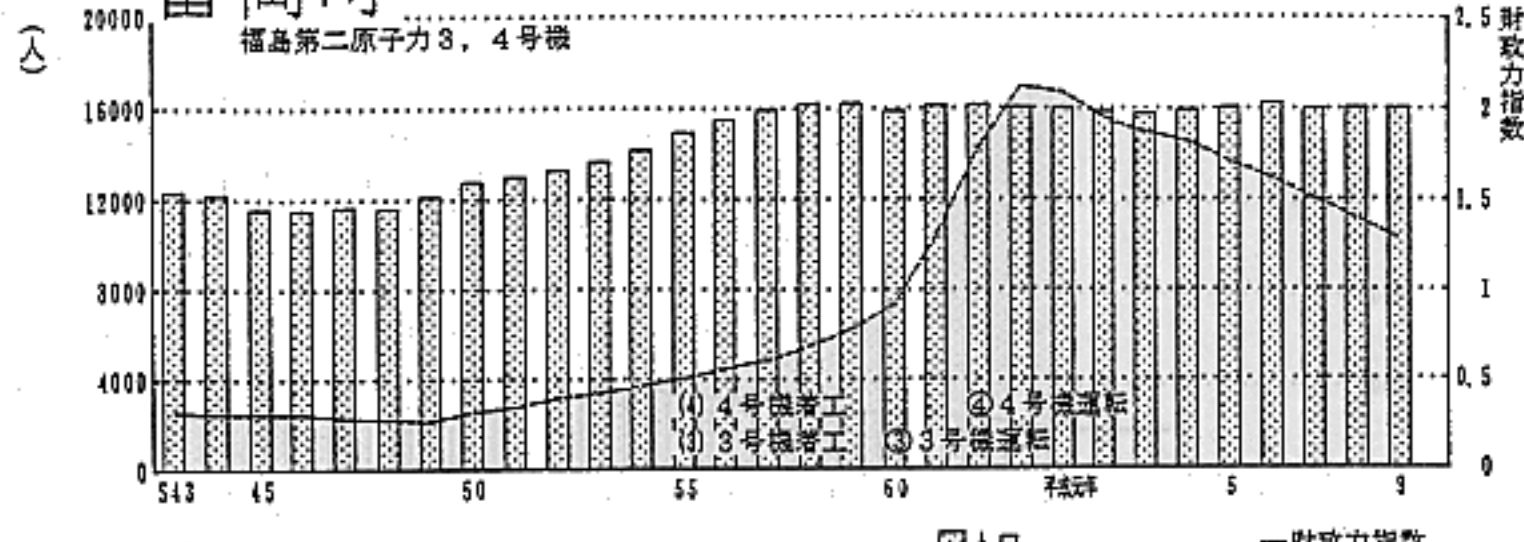


富岡町

人口

一財政力指数

福島第二原子力3, 4号機

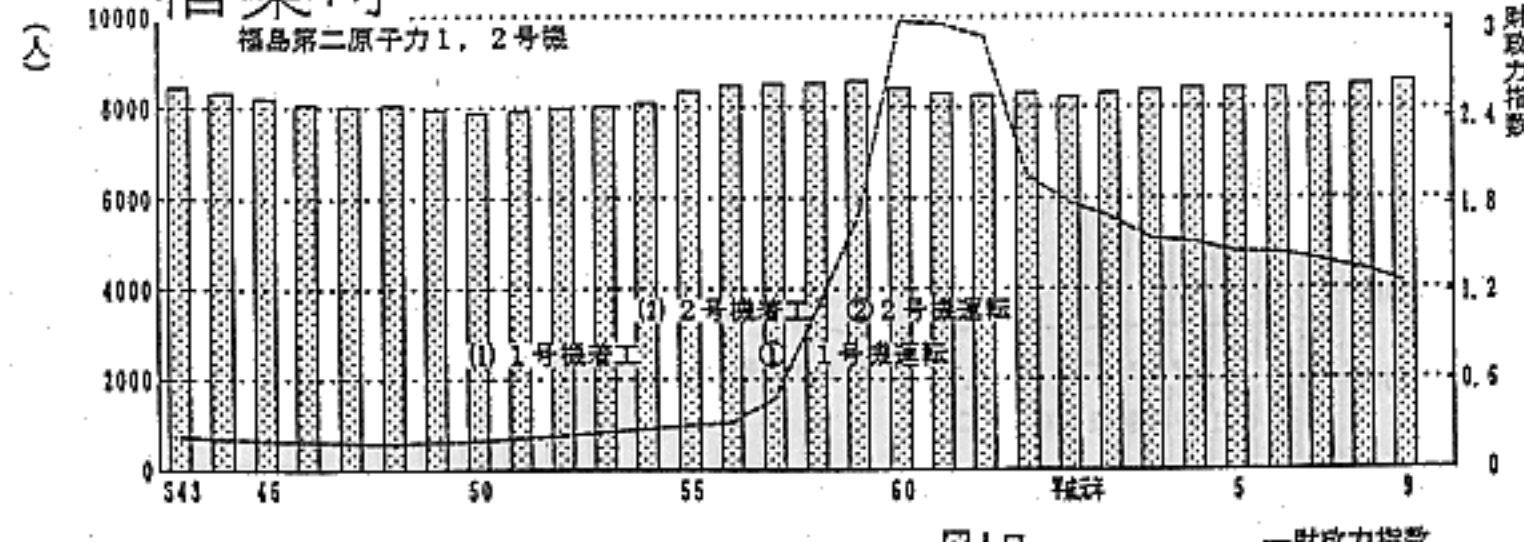


楢葉町

人口

一財政力指数

福島第二原子力1, 2号機

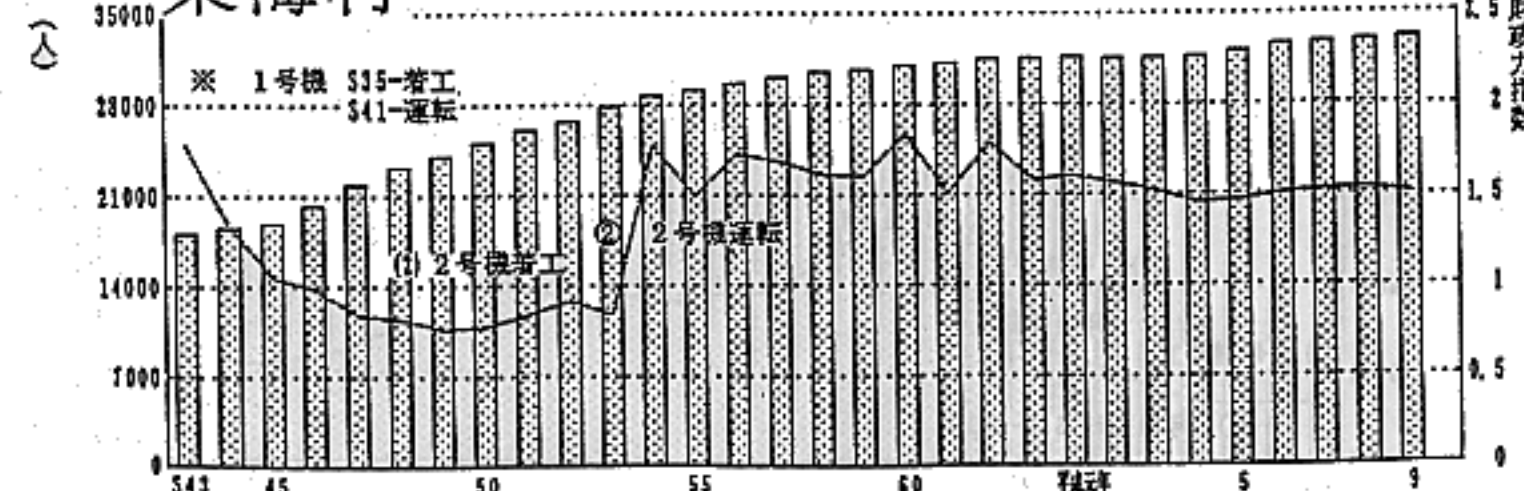


東海村

人口

一財政力指数

※ 1号機 S35-着工
S41-運転

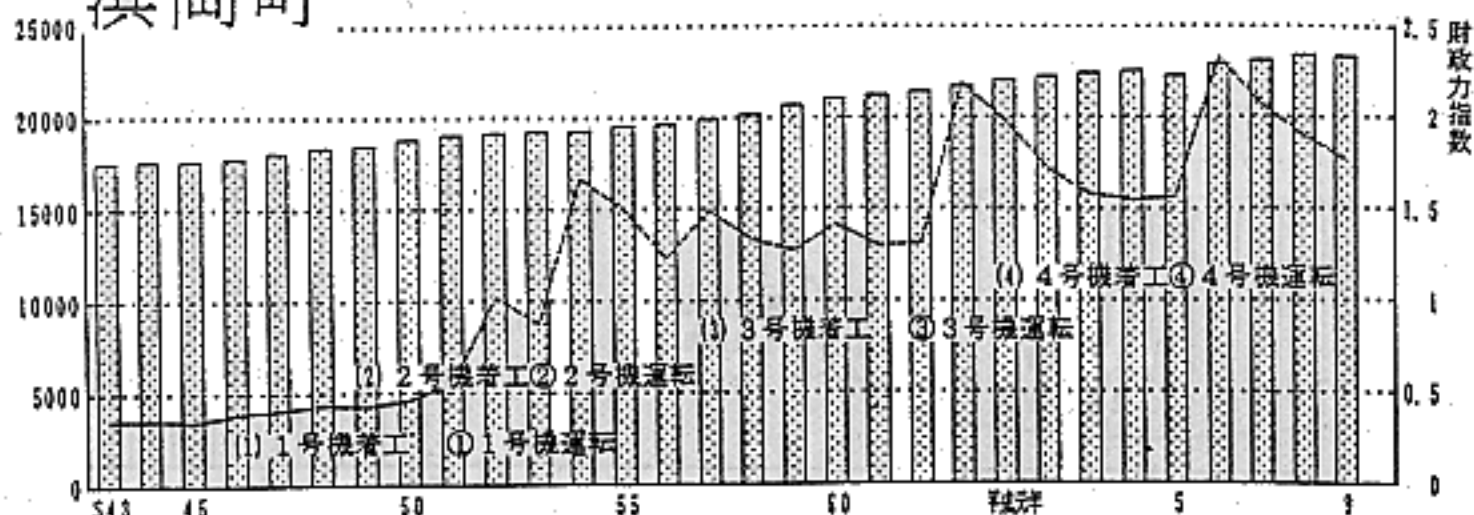


人口

一財政力指数

浜岡町

(人)

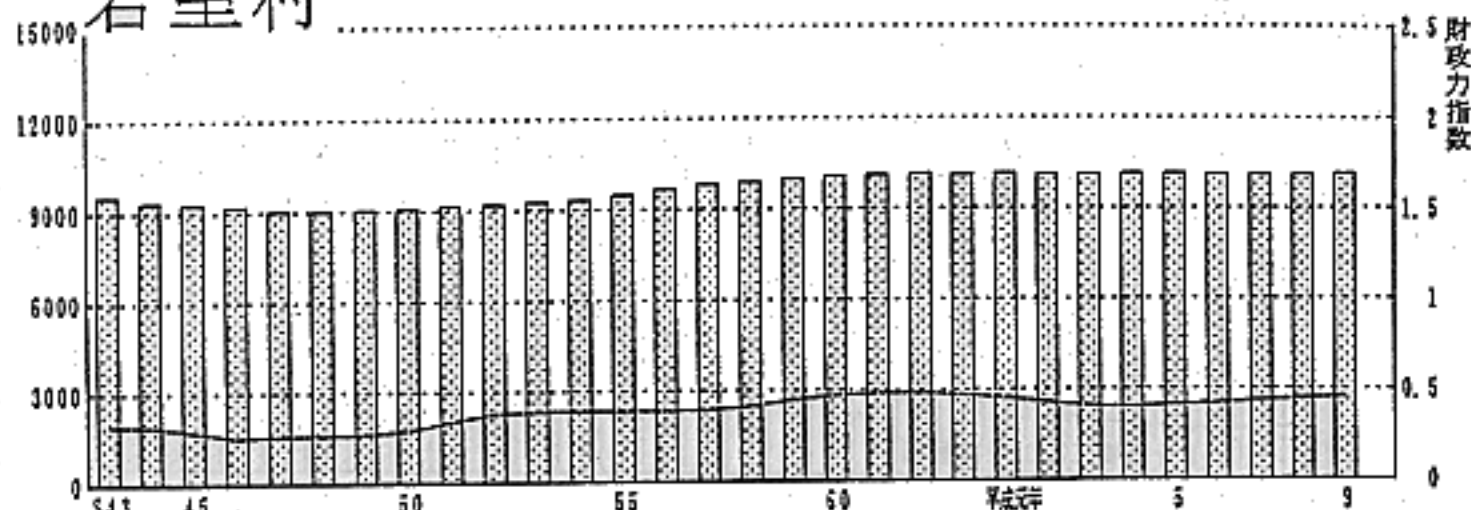


人口

一財政力指数

岩室村

(人)

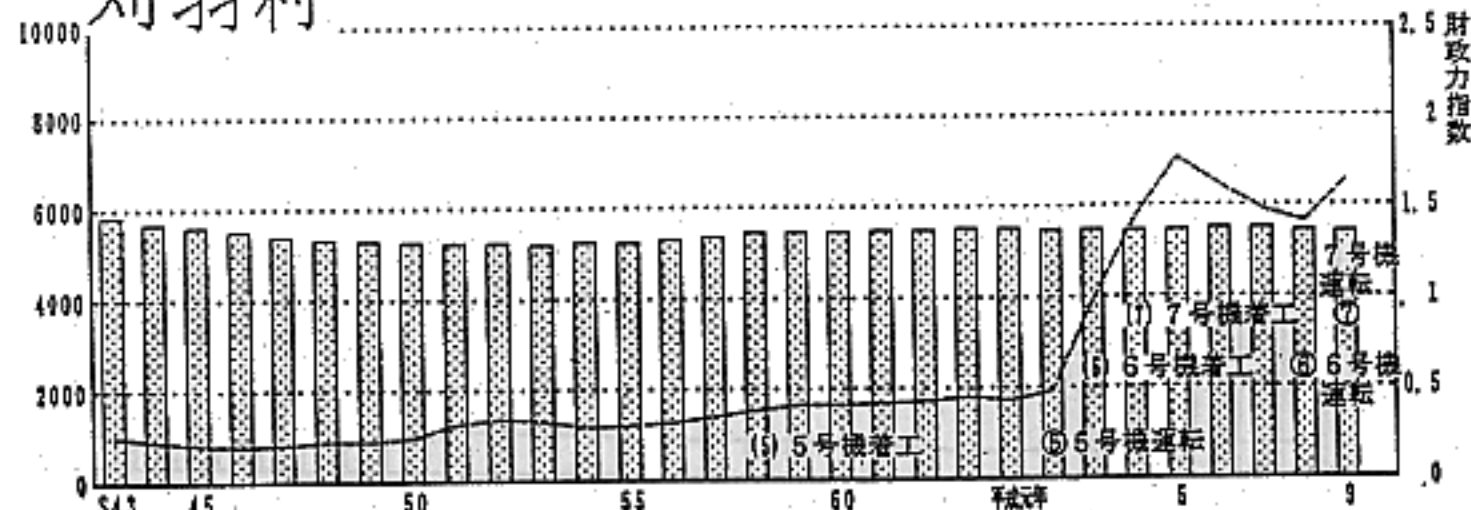


人口

一財政力指数

刈羽村

(人)

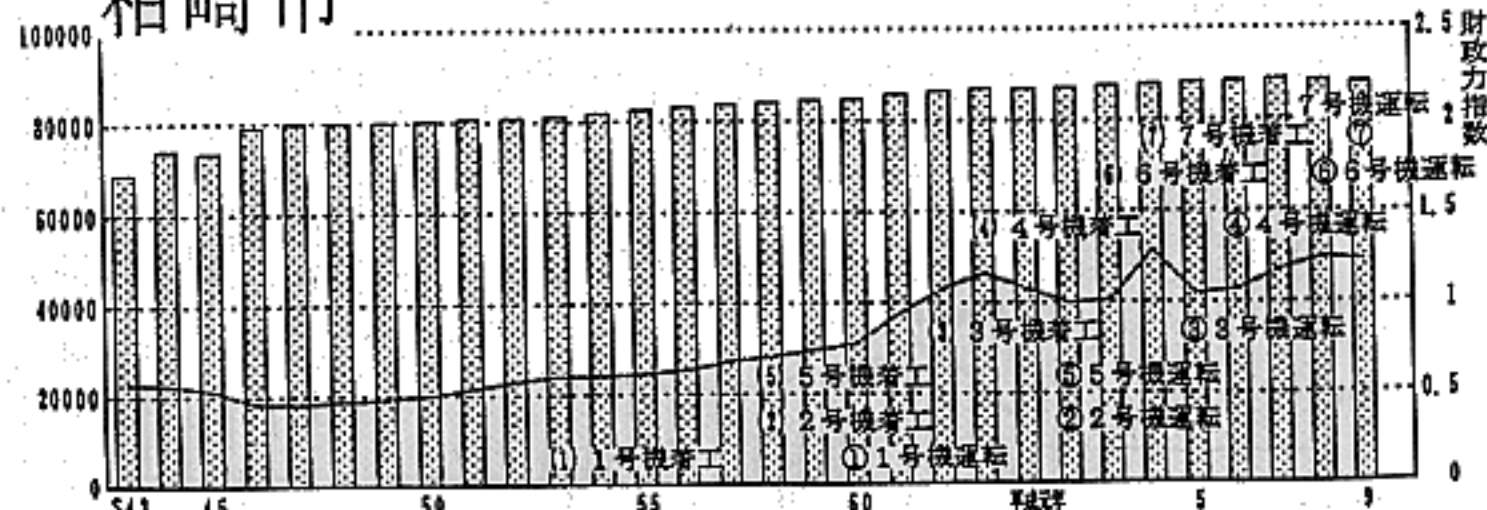


人口

一財政力指数

柏崎市

(人)



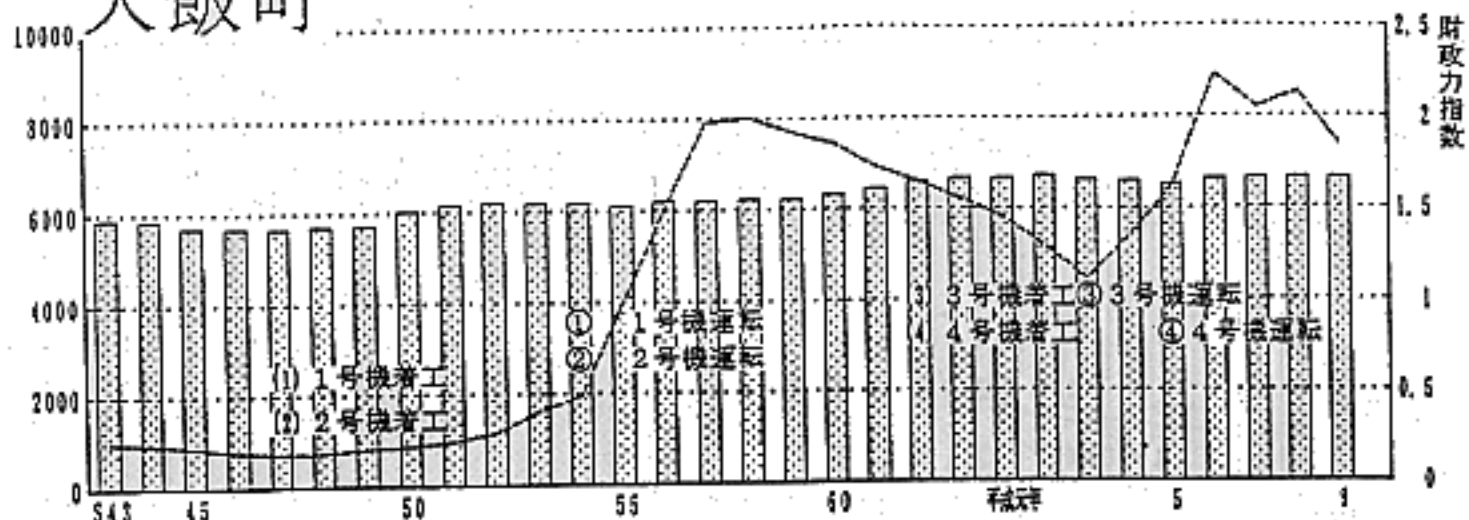
(年)

人口

一財政力指数

大飯町

(人)

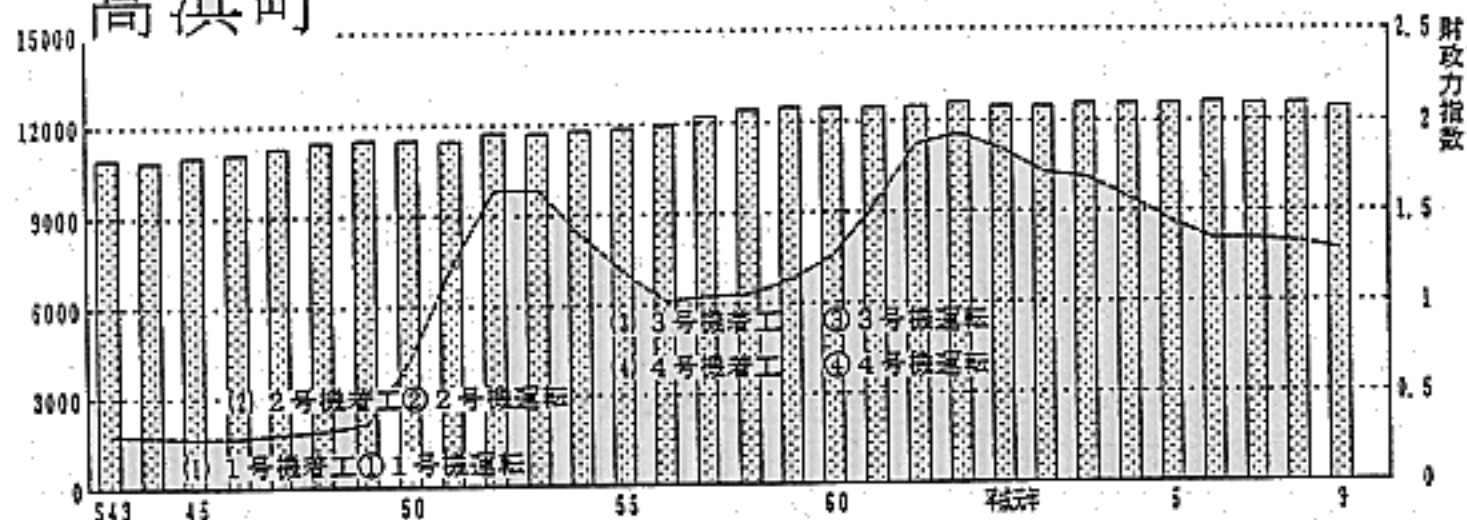


人口

一財政力指数

高浜町

(人)

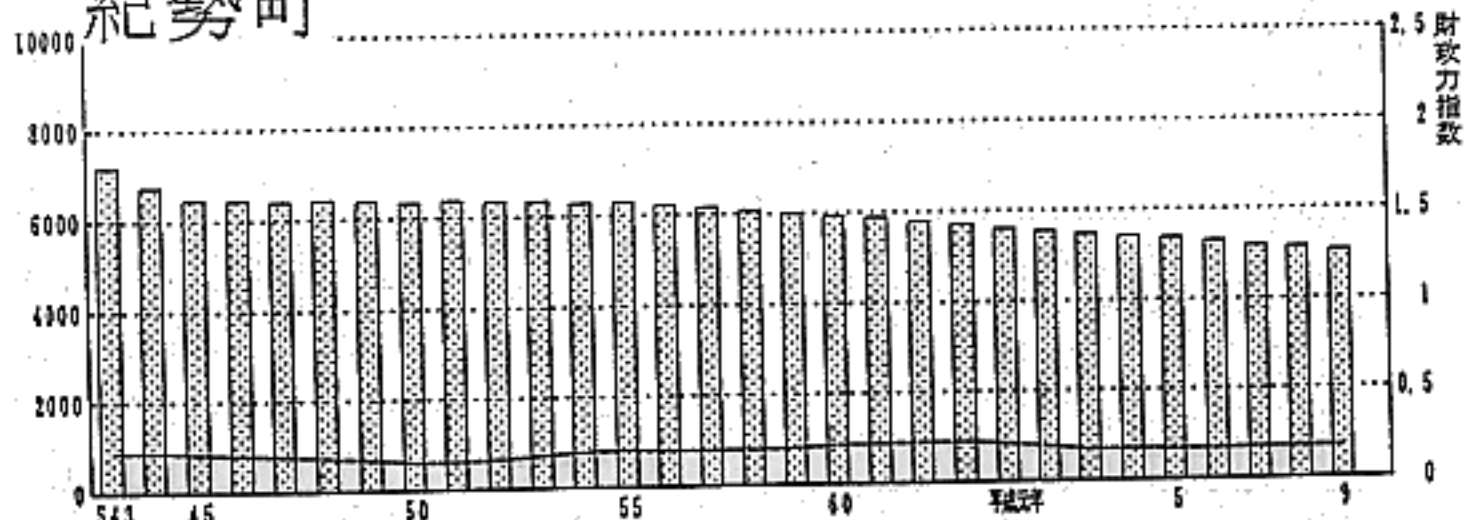


人口

一財政力指数

紀勢町

(人)

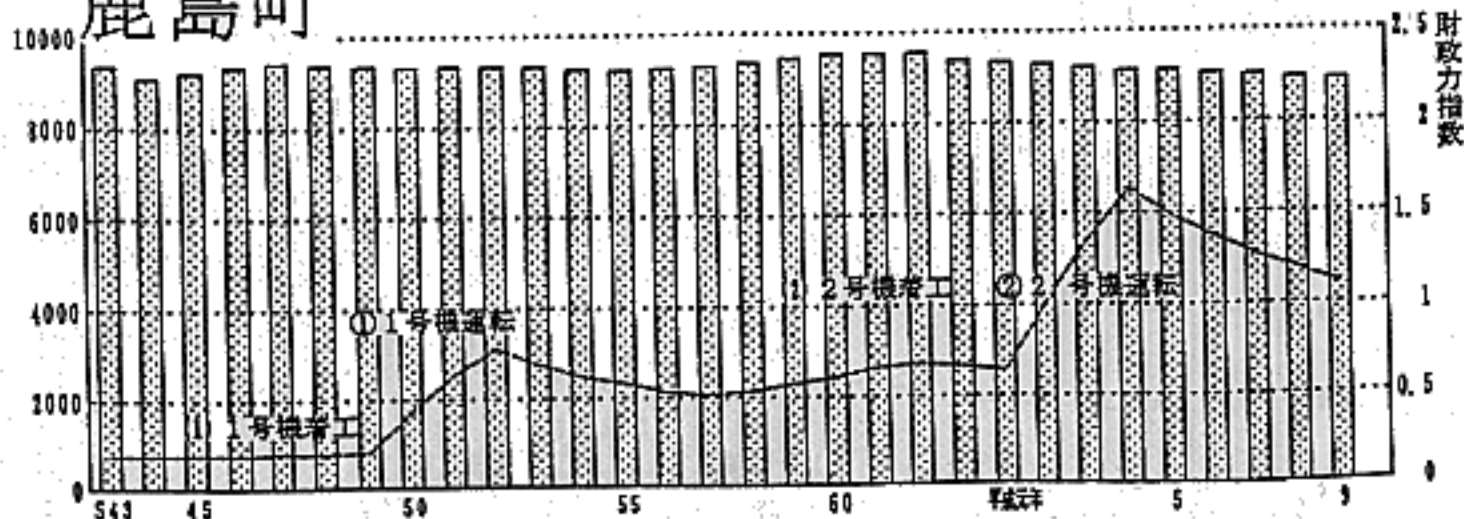


人口

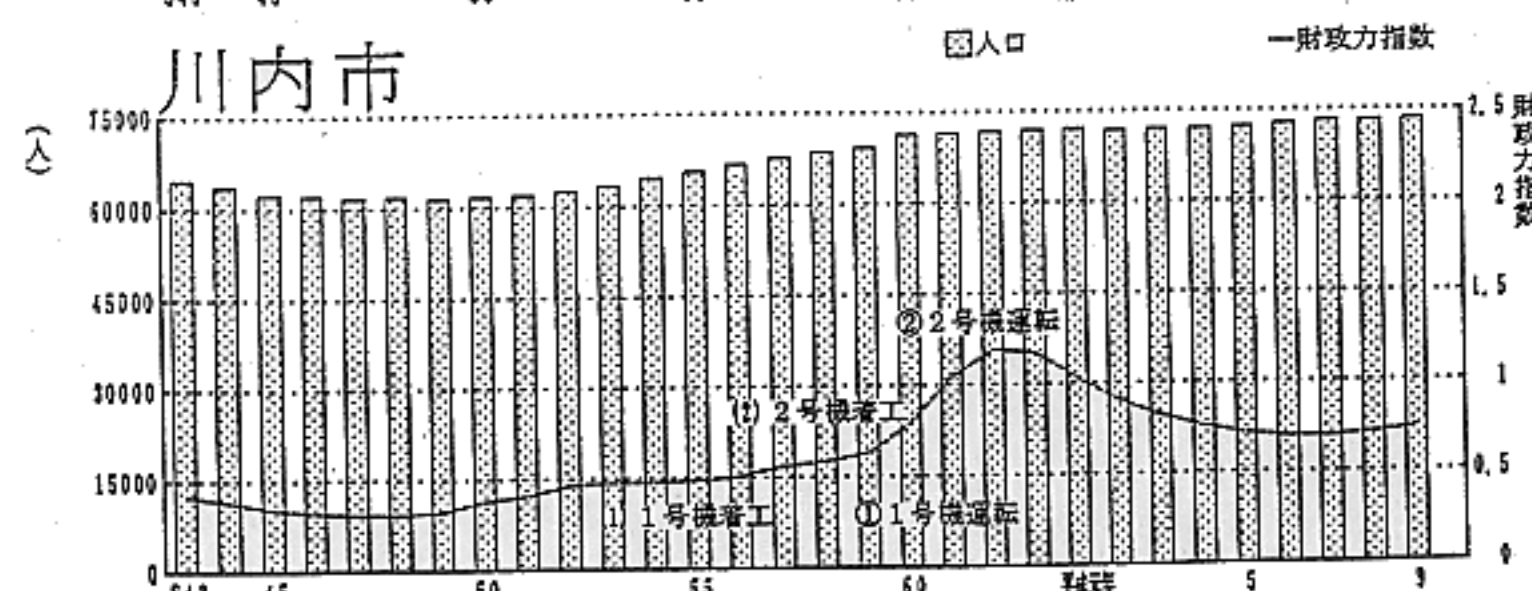
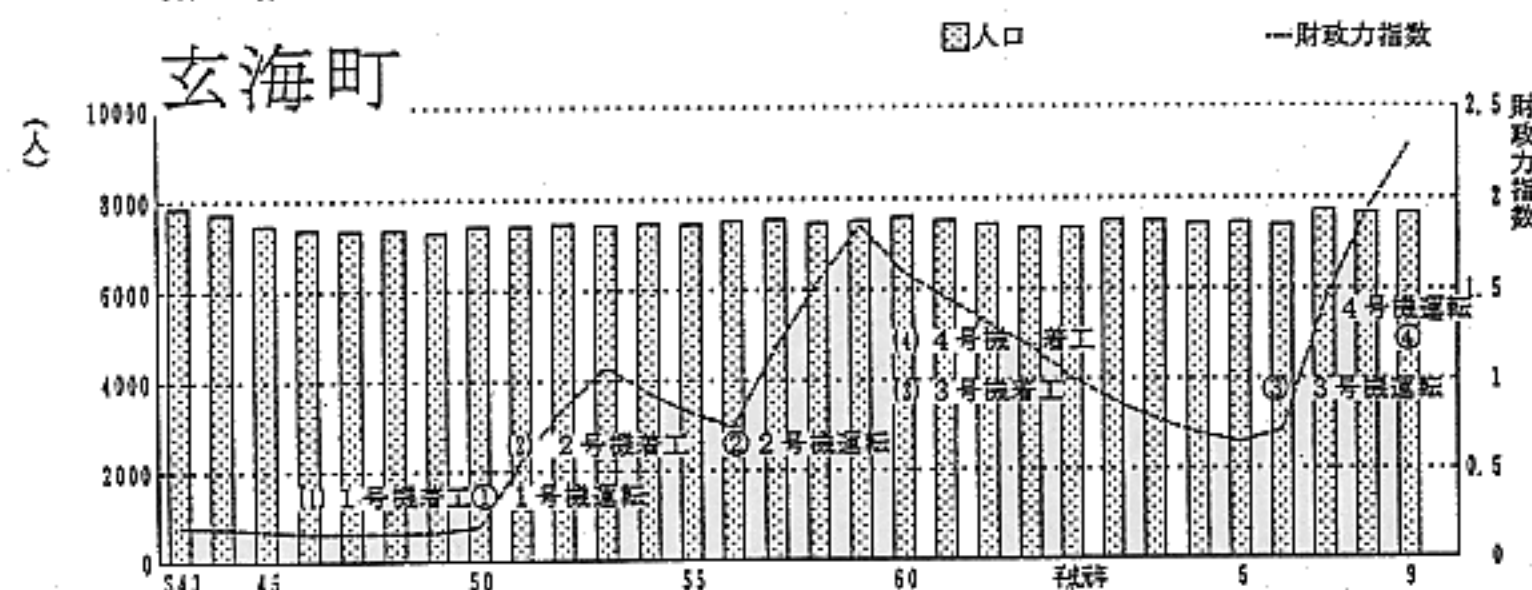
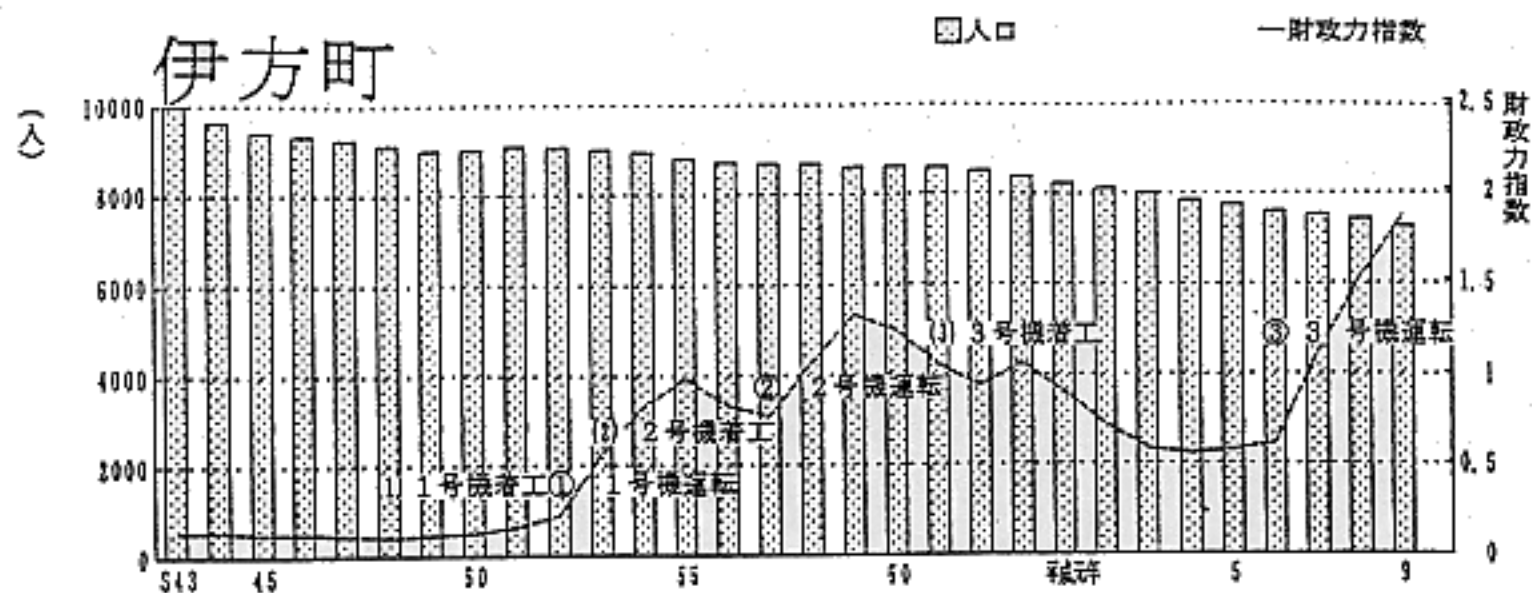
一財政力指数

鹿島町

(人)



(年)



(年)

第1部 アトムのまちから

『神の火』

原発先進地の30年

戦前は大陸との交易でにぎわったみなとまち・敦賀。昨夏、敦賀港開港百周年を記念して「ふるが・きらめきみ」博を営んだ。

「また敦賀に来てもらおう」と、店主の店もある。

は、J.R敦賀駅前には雪光標示衣料品、化粧品、雑貨、お茶などを取り扱った約七十店が二百坪の通りの両側に軒を並べ、この店主の店もある。

直前に日本原子力発電教習 うえ。初めての博覧会に商店
2号機の冷却水漏れ事故が突 街は滞りついた。空を店舗を

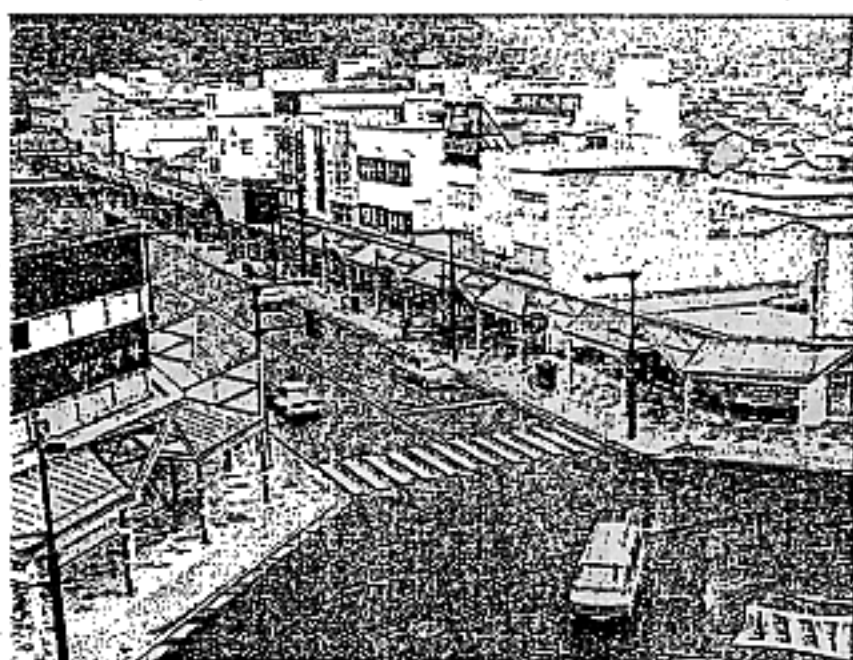
シヤッター

生。影響が心配されたものの、入場者数は当初予定ものの、ランディアになったり。観光客を超える六十八万人に達し、客の受け入れにフル回転した。一方月間のミニは賣金は、のだが……。

大成功だったが、会場のにぎわいとは対照的に、市内の商店街は閑散。イベント特需は限りに終わった。

取り残される商店街

みなと博
効果なく



空き店舗が自立的に救済市場で第一店舗を
街。原發効果への期待は大きいが…

神宮のふたに御衣があらうた

その後、原葬は次々にでたが、シャッターを開けたままの店は増えていった。「商警署跡地では、核爆がPR店は建設費と増す。原葬か施設「数回サイエンスセンターの恩恵を受けるのは、周りに（仮称）」の建設計画を進めていく。戻って最後の最後や」。原葬めっている。

立地による繁栄から取り残された店並みを目にするたびに、梅町のいら立ちは募る。商店街を再生する動きはある。敦賀商工会議所がやっている「チャレンジショップ」でおり、施設の集客力に期待する店主は多い。

期間限定で暮り、支援する事業だが、販売不振で店主は次々に交代し、定着してないのが現状だ。

商店街への「原形効果」には疑いを持つ榎野も「センタ―と気比神宮の間を観光客が歩く。そうなれば、『空き店

市の調査では、市内の商店街の高齢化は急ピッチで進んでいる。神楽町一丁目商店街の高齢化率は市内六商店街のなかで、最も高いとされている。

中で最も高い。「働き口があれば、あした店をたたんでもいい」と話す店主もいる。

原美からの「贈り物」は、シャッターを開けることができたのだろうか。（文中敬称略）

【原子炉（圧力）容器】原発の中心部にある燃料集合体、制御棒、冷却水などを収納している容器。加圧水型軽水炉は290—320度の水を150気圧以上で、沸騰水型は約290度の水を70気圧程度で、それぞれ閉じ込めている。運転中は、核燃料の核分裂で生じる放射線の中性子にもさらされ、過酷な条件に耐える必要がある。加圧水型は沸騰水型より壁が厚い一方、大きさは小さい。国内で最も古い加圧水型の美浜1号機は、金属製のカプセル形で、高さ約11m、直径約4m、壁の厚さ23cm、重さ約240t。

「ほう、見てくらん」。六代のお梅品店店主は、店の天井にできた曇りの一ほほどの六、を指した。

二〇〇〇年は暖冬で明けた。暖れ着姿の参詣客で華やかな気比神宮。その前にある敦賀市神楽町二丁目商店街。奥に、「みなみ」前には花

六は天井裏を外した名残が「客があまり来んから、そのままでござんや」。棚には冬物と一體にまた夏物のシャツが。「あれか。外からのかくと商品がござんや」。よく見ると「」。

原案からの過激な税収を背負い、「みなみ」前には花

「片言の英語で話しかけるやう。すると、楽しそうにうちのお店で買ひだしてつた。

■ ■ ■

日本菓子力務算敷賣一鳥機の建設が始まつた一九六〇年代。当時、雑貨店だった堀野の店には外国人技術者の夫人がよく立ち寄つた。商店街に客足は絶えず、三が日の気比

市の特産では、市内の商店街の高齢化は急ピッチで進んでいる。神楽町二丁目商店街の高齢化率は市内六商店街の中で最も高い。「働き口があれば、あした店をたたんでもいい」と話す店主もいる。

